堀口大學全集

7

堀口大學全集

堀口大學全集　7

昭和五十八年九月二十日印刷
昭和五十八年九月三十日發行

著　者　堀口大學
發行者　長谷川郁夫
發行所　小澤書店
東京都千代田區富士見二―五―十二
電話（東京）二六三―九二一八（代）
印刷　精興社
製本　大口製本
製函　日東工業
定價八五〇〇圓

© M. Horiguchi, 1983

Printed in Japan

凡例

一、本全集は、堀口大學の全業績を、詩、短歌、譯詩、評論・研究、隨想、飜譯作品（小說・戲曲・評論・隨想）等の各分野に亙って、原則として既刊の單行本を中心に編纂したものである。

*

一、本卷（第7卷）は未刊作品Ⅰとし、著者の單行本未收錄作品の中から、現在（昭和五十八年八月末日）までの調査によって蒐集されたすべての隨想作品を採錄した。

一、これらの隨想作品は、單行本既收錄の作品（本全集第6卷所收）をしのぐ膨大な分量に達したため、本卷では例外的な措置として、編輯委員により全體を主題別に七章に分類した（Ⅰ『季節と詩心』追補、Ⅱ 文人交遊、Ⅲ 文藝雜考、Ⅳ 海外見聞、Ⅴ 西歐文人錄、Ⅵ 映畫・演藝、Ⅶ 身邊雜錄）。

一、Ⅰの「『季節と詩心』追補」所收の各作品は、本全集第6卷の「解題」に明記したように、組み置きの校正刷りを底本とし、そのノンブル順に排列した。

一、Ⅱ以下の各章は原則として作品發表順に排列した。但し、「文人交遊」と「西歐文人錄」は作者ごとにまとめて作品發表順に排列し、發表誌・發表年月日不詳の作品は、それぞれ適當と判斷された箇所に挿入した。またこれらの作品は、著者の近代詩史に於ける役割を明確にする方針に則り、すべて初出發表誌紙（一部は單行本初版）を底本として使用した。

一、底本に明らかに著者の筆蹟と認められる改稿がある場合はすべて生かす方針をとり、その異同は校異・校註に摘記した。

一、本卷本文の漢字假名遣等は、原則として底本通りとしたが、昭和二十年後半から三十年代全體に及ぶ混用期の用法については假名遣を基準にして漢字の使用を決定した。つまり底本が新字舊假名遣のものは正字舊假名遣に、正字新假名遣のものは新字新假名遣に改めてある。拗・促音もこれに順ずる。

一、正字舊假名遣使用の本文は、次のような場合に限って訂正した。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

1　誤字・誤植と判斷されたもの。

〔例〕畫顔→晝顔、脈搏→脈搏、復雜→複雜、法庭→法廷、西斑牙→西班牙、等。

2　假名遣の誤り（但し、用ひる、及び音便に關する表記）は底本通りとした。

〔例〕つひ→つい、ように→やうに、しやうと→しようと、しまう→しまふ、てうど→ちやうど、等。

3　脫字、及び送り假名不足で不自然なもの。（〔　〕內は本卷で補ったもの）。

〔例〕書〔き〕つらねる、動〔か〕す、騷〔が〕せ、敎〔へ〕て、知れ〔ない〕が、等。

4　著者の訛用と判斷されたもの。

〔例〕迎ひ→迎へ、構ひて→構へて、おかまへなく→おかまひなく、エサベラ→イサベラ、等。

5　前後が轉倒したもの。（但し、發表當時の慣用と判斷されたものは底本通りとした）。

イ　訂正したもの。

〔例〕澁晦→晦澁、使驅→驅使、行通→通行、自獨→獨自、紫筑→筑紫、廻巡→巡廻、等。

ロ　訂正せず底本通りとしたもの。

〔例〕費消、宙宇、好愛、肯首、鋭尖、等。

6　俗字（但し、同字と見做される場合は雙方を竝用した）。

イ　正字に改めたもの。

〔例〕耻→恥、皷→鼓、濶→闊、戲→戯、凉→涼、熱→熱、纏→纏、鈎→鉤、脉→脈、等。

ロ　雙方を竝用したもの。

〔例〕脣＝唇、竝＝並、鋪＝舗、囘＝回、廻＝廻、蟲＝虫、双＝雙、蹈＝踏、等。

一、次のような場合は底本通りとした。

1　底本發表當時の一般的慣用と見做されるもので、誤字・誤植とは判斷できない用法。

〔例〕紀念、季候、自働車、立琴、業蹟、要之に、無暗、相だ、等。

2　著者獨自の用法。

〔例〕司揮、中食、荷負ふ、一圖、由因、すれずれ、またがくる、等。

3　同語の異書體。

〔例〕其所＝其處、欲＝慾、飜譯＝翻譯、沙＝砂、ぢつと＝じつと、等。

4　當て字・造字。

〔例〕咲唎嚔、等。

5　踊り字。

一、新聞等で第三者の手によって開かれた熟語は、正しく訂正した。

〔例〕てう戰→挑戰、じゆん奉→遵奉、舊たう→舊套、うん蓄→蘊蓄、白カバ→白樺、等。

一、當時の一般的慣用と見做されるものの中でも、普遍性を缺くと判斷されたものは訂正した。

〔例〕不拘→拘らず、一寸と→一寸、お可笑く→可笑しく、要之→要之に、等。

一、新字新假名遣の本文に於いて、人名等の固有名詞は一部の例外を除き原則として新字新假名遣に訂正した。

〔例外〕大學、九萬一、芥川龍之介、等。

一、ルビに關しては各底本が不統一であるため、判讀困難な特殊なもの、及び引用詩篇に付されたもの等を除き、すべて割愛した。

一、外來語や外國の地名人名の片假名表記は、拗・促音を含め原則として底本通りとしたが、とりわけ同一文中に異表記の頻度の多いものに關しては、より普遍的な表記に統一した。

〔例〕リオデジヤネエロ→リオ・デ・ジヤネエロ、ブラヂル→ブラジル、フネルウ→フエネルウ、等。

一、外國語の原綴は、明らかな誤植と思われるものを正すにとどめた。校異・校註に記載のない箇所は、すべて

底本通りである。

一、疑問符・感嘆符の後は一字アキに統一した。

一、本文中の詩の引用箇所は各底本が極めて不統一のため、左右一行アキ（引用後の本文は一字下から始まる）に統一した。

一、本文中の「　」、『　』に關しては、書名のみに『　』を使用し、他はすべて「　」に統一した。またそれらが缺けている場合は補った。

一、底本に付された行アキを示す☆や＊、また第三者によって付された見出し等は、特別のもの以外すべて削除した。

一、底本に伏字〔×××…〕が用いられている箇所は、それを埋めるための資料がなく伏字のままとした。

一、底本を訂正出來ない箇所、及び諸々の問題點は、本文の行の右側に〔註〕の記號を付し、校註に記した。

一、以上の處置により、本文と底本との間に異同を生じた場合は、ルビ・括弧・引用形式の異同以外はすべて校異に摘記した。

一、卷末の解題には、資料として散文總目錄を揭げ、著者の全散文の推移と所在を明瞭にした。

目次

未刊作品Ⅰ

隨想 5

Ⅰ 『季節と詩心』追補 7

Ⅱ 文人交遊 47

Ⅲ 文藝雜考 163

Ⅳ 海外見聞 279

Ⅴ 西歐文人錄 409

Ⅵ 映畫・演藝 515

Ⅶ 身邊雜錄 589

作品細目 773

校異・校註 785

解題 803

堀口大學全集 7

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

未刊作品 I

隨想

I

『季節と詩心』追補

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com